

音楽科教育にかかわる現状と課題

部長 種村 啓子

1 音楽科教育の動向

【上越地区】

11月28日（木）、第47回上越音楽教育研究会が上越市立南川小学校において開催され、「仲間と協同し、感動を高め合う音楽授業を求めて」（第3年次）を研究主題として、2年生の「リズム遊び」の授業が公開された。生活科で栽培した野菜への思いを大切しながら児童一人一人がつくったリズムフレーズをつなげ、グループでひとつの作品「ロ～ングやさいドンドコ」をつくり表現し合う学習が行われた。活動の中で、仲間と「なふうにしようか。」と意見を交換したり助け合ったりするなど、他者とのより深い関わり合いによって意欲的に活動に取り組み、仲間と共に「できた・わかった」という喜びや充実感をもつ児童の姿が見られた。

【中越地区】

県小教研指定研究第2年次研究調査校の田上町立田上小学校では、「田上町の伝統や文化を自己化する子どもの育成」の主題のもと、今年度は、生活科の学びと総合的な学習の時間の探求を通して育ってきた郷土に対する思いを、音楽科で習得してきたものに繋いで音楽づくりに生かす題材構成の工夫を試みた。2年生「田上の音」4年生「才歩川の音楽」の授業実践を通して、リズムや強弱の工夫、楽器やその音色の選択などによってイメージする音や音楽を追求し、音の面白さに気付いたりその響きや組み合わせを楽しんだりする子どもの姿が具現されてきている。次年度10月12日（水）に研究大会を開催する。低中高で公開授業の予定である。

【新潟市・下越地区】

12月3日（金）、新潟市立白根小学校で第34回新潟県下越音楽教育研究大会を開催。「思いふくらめ ひろがれ音楽 ～聴いて・感じて・工夫して、自ら表現する音楽学習を目指して～」を主題とし、3年生、5年生の授業を公開。3年生は、言葉のリズムをもとに、「問いと答え」の音楽の仕組みを生かして白根大凧合戦の旋律をつくる“音楽づくり”の授業、5年生は、新潟ゆかりの曲「砂山」を、歌詞の内容や旋律の特徴を生かした歌い方にするために、強弱や速さをグループで話し合い、表現することを目指した授業であった。協議会では、新学習指導要領を受けて題材・教材のとらえ方や授業の組立て方について活発に意見交換がなされた。

2 音楽科教育の課題

共通事項を表現及び鑑賞の各活動の中に位置付け、指導の関連を図る授業展開。

